

2025 年度 タイ・カセサート大学単位互換プログラム 9・10 月報告書

獣医学群獣医学類 5 年 石川結梨(Yuri Ishikawa)

不安と期待で始まったタイでの留学生活ですが、自身の知識不足や語学力の不足により、毎日の授業で悪戦苦闘しているうちに早くも 1 カ月が経ち、単位互換プログラムの残り期間も半分となりました。

1 週目の授業は Swine Unit での実習でした。

講義では、豚の飼養管理方法、疾病予防と治療などについて学びました。

タイでは、日本で未発生のアフリカ豚熱が蔓延しており、この感染症の予防や農場での発生時の対応について、先生方から詳しく教えていただきました。

Necropsy (剖検) の実習では、3 人 1 組で豚の解剖を行い、臓器ごとにどの部分に注意して観察を行うかを学びました。

病変があった検体については、その病変から考えうる症例をディスカッションし、先生方からのフィードバックをいただきながら、どのようにして考察していくのかを学びました。

農場でのフィールドワークは、水蒸気の気化熱と豚舎内の空気の流れを利用して、温度を下げる Evaporating Cooling System を取り入れている豚農場を訪れ、このシステムにより、豚舎内の温度や空気の循環が適切に保たれ、一年中暑いタイにおいて豚の暑熱ストレスを軽減することを学びました。

2、3 週目は Aquatic Animals Unit での実習でした。

途中、体調を崩してしまい、実習に参加できない日が続いてしまいました。

本ユニットでは主にエビとタイで広く流通しているティラピアという魚について学びました。

魚病学の講義は酪農学園大学でもありましたが、本ユニットでの講義はさらに詳しい内容で、毎日授業の復習に必死でした。

フィールドワークでは、池の中に水路（水の流れ）を作り魚の生産性を高めるための In Pond Raceway System のアイデアを導入しているティラピア農場に足を運び、どのようにティラピアが養殖されているかを学びました。

エビの Necropsy (剖検) では、心膜洞 (Pericardial Sinus) からの採血に初めて経験し、エビから鰓 (Gill) と肝膵臓 (Hepatopancreas) を採取し、顕微鏡下で観察を行い、構造の確認およびエビの状態の評価を行いました。

2 週間にわたる金曜日のプレゼンテーションでは、先生方からの質問が大変難しく、また Aquatic Animals という分野は他の科目と比べてあまり馴染みがなく、知識も乏しく、学ぶことがとても多くありました。

4 週目は Bovine Unit での実習でした。

主に往診に随行させていただき、実際にタイの農場で蔓延している疾病について、治療や予防を実際にどのように行っているのかを学びました。

実際に症例を目にししながら、どのような治療が適切なのか、そして予後について自分たちで考察し、先生方の意見をいただく機会もありました。

また、口蹄疫について、日本では直近での発生はなく、WOAH（世界動物保健機関）により「ワクチン非接種口蹄疫清浄国」と認定されていますが、タイでは蔓延しており、発生時の対応について日本とは大きく異なります。

タイでは発生農場での全頭淘汰の必要はなく、発症した牛に対して治療を行うと先生から教えていただきました。

タイで主に飼育されている肉牛の品種は日本とは由来が異なり、タイの暑い気候に対応した体つきで、皮膚が垂れたような見た目をしており、日本の肉牛とは全く異なるのが印象的でした。

5週目は Exotic Unit での実習でした。

来院したエキゾチックアニマルの診療に参加させていただきました。

タイでは、リクガメなどの大型の亀や大型の鳥をペットとして飼育している人も多く、さらに体調不良や交通事故にあった野生動物を連れてくる方も多くみられました。

実際に、これらの動物の診療がどのように行われているのかを学びました。

Raptor Rehabilitation Center での実習では、フクロウの定期的な健康診断に参加させていただきました。フクロウの身体検査（翼を負傷している個体が多く、羽の数を数えるのが難しかったです）や、頸静脈からの採血を行いました。

また、フィールドワークで訪れたリクガメの農場では、亀への皮下注射を行いました。

本ユニットで飼育されているリクガメには、胸筋への筋肉注射も行いましたが、大型の亀の保定は大変であり、さらに亀は胸郭が甲羅と融合しているため、胸筋への注射は非常に難しかったです。日本では体験できない貴重な経験となりました。

休日には、同じく本プログラムに参加している友人たちとショッピングに出かけたり、美味しいものを食べたりしてリフレッシュしていました。

はじめは慣れない環境に戸惑うこともありましたが、友人たちと過ごす時間が良い息抜きになっていました。

また、昨年度にタイから酪農学園大学へ留学していた友人たちと、タイで久しぶりに再会することができました。お互いの近況を語り合ったり、留学を経験した彼女たちからアドバイスをもらったりして、充実した休日を過ごしていました。



タイの肉牛



牛農場にて先生方と一緒に



子牛の身体検査を行っている様子



豚農場での集合写真



タイ人の友人おすすめのカオソーイ
程よい辛さで大変美味しかったです。



週末に訪れた Chatuchak Weekend Market の MAP

約 1.13km²の広大な敷地内には約 15,000 軒以上の様々なお店があり 1 日では回り切れませんでした。セクションごとにお店の種類が分かれているため、効率よく買い物をするには事前に調べておくといいです。



Chatuchak Weekend Market で有名なパエリアのお店
お店の前で大きな鍋を使ってパエリアを調理してくれます。